

イワンの東洋人の戀人といふのは、かつて三角戀愛同盟に破れて、政府で有名にした無政府主義者を刺し殺さうとした女であつて、イワンは盲人ながらも彼女の聲に自分の魂をかき亂すほどの力のあることを感じて、自分の弱く頼りなき身の力になつて貰はうと、共同生活を申込んだのであるが、彼女の方から断はれて失戀の涙にくれたことがあるのだ。

フジイはイワンの夢を書いたといふ『尖塔上の絶叫』を思出し、矢張り彼れの如き者の居るべきところは尖塔上でなければならぬのか、いつの世になつたら、吾れくが安心して住む國がこの地上に立てられることかと歎息を漏らした。そして隣國日本の良い國であることを羨しく思つた。なぜイワンは日本へ逃げて行かなかつたのかと怪しんだ。

江原小彌太短篇集(終)

大正十年九月廿八日印 刷

大正十年九月三十日發行

(定價金三圓二十錢)



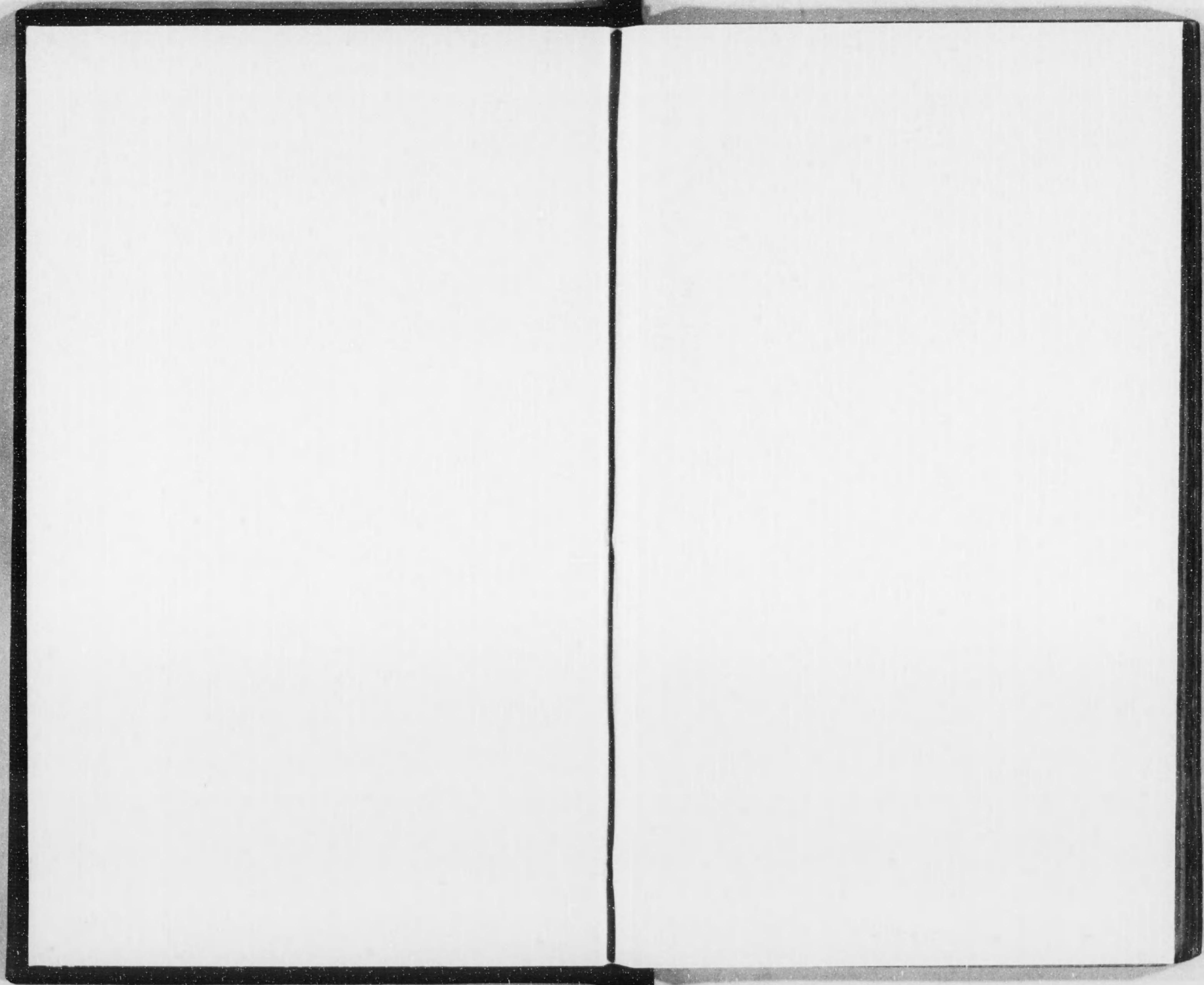
發行所

越山堂書店

東京市神田區中猿樂町四番地
電話九段一三九二番
振替東京一二九五四番

京府荏原郡玉川村新町
石 江原小彌太
京市神田區仲猿樂町四番地
者 帆刈芳之助
京市神田區小川町二の六
者 宮田 龜 六

KI 3 F-60



終

○
複写